

INFORMATION

プラネタリウム春の番組

彗星～46億年前からの手紙

5月に接近する2つの彗星の最新情報を紹介。
また、彗星とはどんな天体か、その研究の最前線を解説します。

4月10日(土)→7月11日(日)

平日	16:00
土曜日	13:30 17:30
日・祝日	11:30 15:30

今夜の星空と天文ニュース

今夜の星空の見どころと最新の天文情報。

土曜日	15:30 19:00 (上映日に注意)
日・祝日	13:30

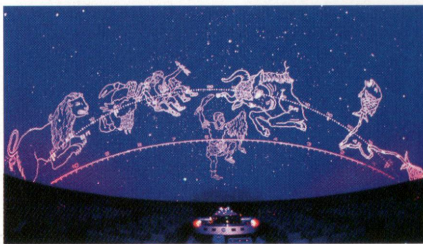
キッズアワー

幼児～小学校低学年向け番組。

土曜日	11:30 (上映日に注意)
4月3・10・17日	「ドームくん わくせいりょう」
5月1・8・22日	「ドームくん わくせいりょう」
6月5・12・19日	「たなばたものがたり」

土曜の夜のプラネタリウム

音楽を中心とした『ミュージック・プラネット』、『今夜の星空と天文ニュース』、コンサートなどのイベントを行っています。
詳しくはホームページをどうぞ。



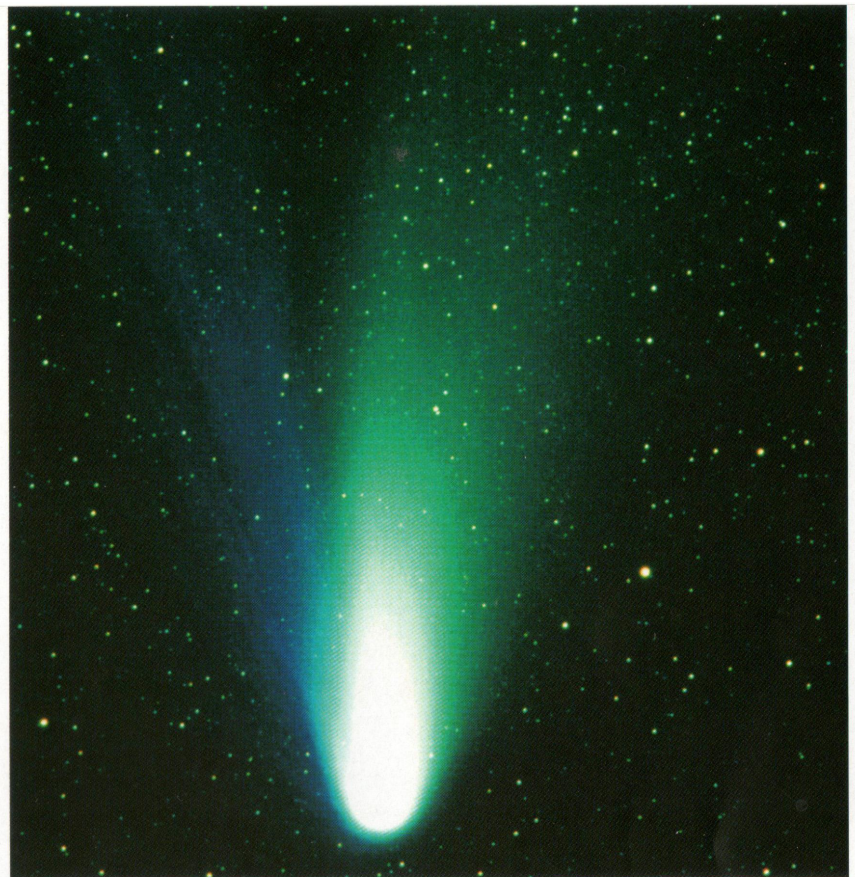
■ 料金 (入館料を含みます)

大人450円/小・中学生150円/幼児50円
土曜日は小・中学生以下無料

■ 休館日・休演日

月曜日 (祝日は開館)
第2・4火曜日 (祝日は開館し翌日休館)
6月23日(水) (臨時休館)
5月18日(火)～19日(水) (機械保守点検のため)
7月14日(水)～16日(金) (番組入替のため)

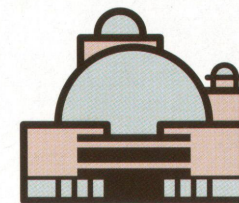
■ 上映15分前までにこ来館ください。



PLANETARIUM

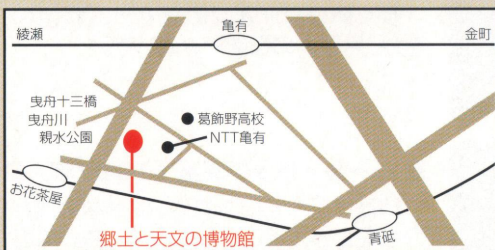
彗星～46億年前からの手紙

Vol.52 2004・春



KATSUSHIKA CITY MUSEUM

交通のご案内



- 京成線「お花茶屋」から8分
- JR常磐線「亀有」から25分
- 京成タウンバス (有57 亀有一タウンバス車庫) [共栄学園][上千葉小学校] 下車徒歩5分
- 駐車場に限りがございます。電車・バスをご利用ください。

ホームページでも詳しくご案内しています。 <http://www.city.katsushika.tokyo.jp/museum>

葛飾区 郷土と天文の博物館
〒125-0063 東京都葛飾区白鳥3-25-1
TEL 03(3838) 1101

R100
このウェブサイトは再生産を推奨しています。

2つの彗星、夢の競演。



■ニート彗星とリニア彗星

今年の5月、2つの彗星がたてつづけに夜空に現れます。

まずはニート彗星。5月上旬ごろから夕方の西の空に姿を現します。5月15日頃には、かに座の中に3等級ぐらいで輝いているはずですが、日に日に見える高さは高くなっていきますが、すでに太陽から遠ざかりつつあり、明るさの方はゆっくりと暗くなっていきます。

続いてはリニア彗星。5月の下旬から、夕方の西の空低くに2等星ぐらいで輝きます。こちらも太陽から遠ざかりつつあり、ゆっくりと暗くなっていきます。

上の写真はプラネタリウムでシミュレーションした5月25日の20時ごろの空。東京では難しいかも知れませんが、空が暗くて見晴ら

しの良い場所では、この頃、2つの彗星の夢の競演も見ることができるかも知れません。

■太陽系の惑星たちも大集合

さらにこの頃は、金星・火星・木星・土星の4つの惑星が夕方の西の空に集合しています。

6月8日に122年ぶりの太陽面通過がみられる金星、探査機の調査によって、かつて水があったことが確実に注目を集めている火星、そして6月にアメリカとヨーロッパが開発したカッシーニ探査機が到着する土星など、話題の惑星たちにもぜひ注目してみてください。

46億年前からの手紙あれこれ

太陽系の彼方から、地球の近くまで届けられる46億年前からの手紙「彗星」。特に明るくなったものは、「大彗星」として多くの人を魅了しました。あなたの記憶にある「彗星」はありますか？

ひとえに「彗星」といっても、その姿は、ご覧の通り個性にあふれています。



■ウエスト彗星 (1976年)

明け方の東の空で雄大な姿を見ることができました。長く、幅のある尾が特徴的です。

当時の家庭に普及していたカメラでも簡単に撮影することができ、彗星の研究に貢献しました。

津村光則氏



■ハレー彗星 (1986年)

約76年周期で地球の近くにやってくる有名な彗星です。この年は、予想よりチリの尾が伸びず少し寂しい姿でしたが、探査機によって、彗星核の様子を初めて見ることができました。

次に戻ってくるのは2061年です。

ROE/AAO



■百武^{ひゃくたけ}彗星 (1996年)

発見された2ヶ月後には、地球の近くまで接近し、肉眼でも長く伸びた尾を見ることができました。

長く伸びたイオンの尾とラムネ色のコマが、見る人の目をひきました。



■ヘール・ボップ彗星 (1997年)

地球に近づくとつれて、様々な角度からの姿をとらえることができました。幅広いチリの尾が特徴的です。また、その中に、細い筋のような珍しい模様も見ることができました。

博物館1階のレファレンスコーナーにも彗星に関する本がありますのでご覧ください。また、ホームページのプラネタリウム一般番組のページにも詳しい情報があります。